

ようこそ！「知の森」附属図書館へ！

図書館は好きですか？今まであまり利用したことがないという方も、新年度をきっかけに足を運んでみませんか？**知の森で素晴らしい出会い♥**があることを願って附属図書館の **豆知識** をご紹介します。

蔵書はどれくらい？

図書・・・約**9万1千冊**
雑誌・・・約**100**タイトル
新聞・・・日刊は**5紙**
DVD や紙芝居、大型絵本も所蔵しています。

OPACってなに？

オーパックとは、**Online Public Access Catalog**の略で、パソコンを使ってできる蔵書検索サービスです。館内はもちろんのこと、**館外のパソコンやスマートフォンからも、検索**できます。お目当ての本があるか？貸出可能か？簡単に調べることができますよ。

レファレンス・サービス

探している本が見つからない。何で調べたらいいの？おススメの本は？etc...
本のことなら図書館員にお気軽にご相談ください。**調べ物のお手伝い**がこのサービスです。

何冊借りられるの？

本学学生・・・**5冊**まで
学外利用者・・・**2冊**まで
期間・・・貸出日から**15日**以内です。
雑誌もバックナンバーは貸出OK！
(禁帯出を除きます)
2階書架にバックナンバーがあります。

読みたい図書が附属図書館にない・・・

レポートや研究に必要な図書を、**他の大学や国立国会図書館**から借りたり、必要な資料の文献複写を依頼したりすることができます。
また、**購入希望の用紙**に書いて申請することもできますよ。



なんたるうあやしげ 南陀楼綾繁 氏 来館！



創立50周年記念オブジェと共に記念撮影

南陀楼氏はライターで編集者。季刊『本とコンピュータ』の編集スタッフとして宮武外骨や花森安治に関連する本・雑誌を担当されていたそうです。また2005年から谷中・根津・千駄木で活動している「不忍ブックス・トリート」の代表として、各地のブックイベントにも関わっておられます。



『町を歩いて
本の中へ』
南陀楼綾繁 著
原書房
020.4 / NA



『ほんほん
本の旅あるき』
南陀楼綾繁 著
産業編集センター
024.1 / NA

開館時間の
お知らせ

月曜日～金曜日 9:00～17:00
臨時に休館する場合は、その都度掲示でお知らせいたします。

おすすめの本

生活文化学科
食物栄養専攻 教授
垣渕直子 先生

『思い込み弁当』
栄養学生団体【N】
セブン&アイ出版



みなさんはお弁当を作ったことがありますか？それは自分用のお弁当ですか？誰かのためにお弁当を作ったことがあるでしょうか？

今回紹介させていただく本は栄養士・管理栄養士の卵、つまり栄養学を学ぶ学生たちによって設立された日本初の団体である「栄養学生団体【N】」のメンバーが作った本です。そんなメンバーがおいしいごはんを思うように作れず、悔しい思いをしたこと、栄養学の世界の奥深さにくじけそうになったこと、そんなことを体験し、でもそのたびに自分たちがたくさんの人たちに支えられていることに気づくのです。「一人前の栄養士・管理栄養士になりたい！」という目標に向かって進むなかで、周りの人に励まされ、元気づけられ、それが夢や希望につながりました。そんな私たちにできることで「感謝」を伝えたい。身体のために栄養バランスを一生懸命考えたおいしいごはんを大切な人に贈りたい。そんな気持ちをお弁当に込めて「このお弁当を届けたらきっとみんなが笑顔になって喜んでくれる！」という前向きな思い込みと、心の底からありったけの想いを込めてつくったお弁当。それこそが本のタイトルでもある「思い込み弁当」です。

この本では、それぞれの学生がたったひとりのことを思いながら、相手とのエピソードをもとに考えたおかずを作り、お弁当にして贈っています。夢を応援してくれた予備校の先生へ、「感謝満点☆まごころ弁当」を送った学生。日本が大好きなドイツ人の友人に、メインのいなりずしに桜の形をかたどったかぶの甘酢漬けをのせた満開の桜をお弁当箱に咲かせた学生。その人に贈るお弁当は日常の伝えられない想いも届ける伝書鳩や思い出のアルバムなのかもしれません。そのアルバムに新しい思い出を詰め込むようなお弁当作りは「感謝」の気持ちが最後の味つけとなっているのでしょう。

お弁当の中身は十人十色、48人の48通りのお弁当が48人の想いとエピソードと一緒にこの本には詰まっています。また、お弁当の写真と一緒にレシピも紹介されていますので、初めてお弁当作りをするよ！という人にも参考になる一冊ではないでしょうか？

大切な人と自分をつなぐものは、食。

食とは、人を幸せにするもの。

そんな「想い」のあふれたこの本書を、食物栄養専攻の学生だけでなく、全学科の学生さんも手にとってみてください。

～他にも参考になりそうなお弁当レシピ本～



『おべんと帖 百』
伊藤まさこ著
マガジンハウス



『暮らしの手帖のおべんとうのおかず196』
暮らしの手帖編集部



『続けられるおべんとう』
いづいさちこ著
誠文堂新光社

「わたしの図書館…」

生活文化学科

生活介護福祉専攻 2年

上岡 智彦 さん

わたしが図書館という公共の場を利用させてもらったのは、いつだったのだろう…

記憶の底をたどってみた。高校三年生…、丸亀城内の図書館（資料館？）の自習室…、受験勉強!?本が好きで楽しい所…ではなかった。当時の私の図書館とは不謹慎と思われるかもしれないが…受験勉強してますよ～的なポーシングの場所、密かなデート場所、友人と騒ぐと叱られる静か～な特別な場所。これが私の初めての図書館の風景…（お恥ずかしい限りなり）

更に思いおこしてみると…小さな頃”本”と言えは、歯医者さんの順番待ちに読みあさっていた漫画（鉄人28号、のらくろ二等兵、手塚治虫の火の鳥 & ジャングル大帝レオ、石森章太郎 サイボーグ009）と、何故か家の本棚に飾ってあるのは堅くて重い、開くとインクの匂いがキツい～ブリタニカ百科辞典（折ったり汚すと叱られるから、殆ど触らない）くらい…。そして夏休みの読書感想文のために小学校の図書室で借り無理やり読まされた文学全集（何だったか思い出せない…本＝感想文＝嫌いの図式が出来た!）。「マンガばかり見てるとバカになるよ」と母に言われながら、活字ぎっしりの文学の良さとは無縁な少年期を過ごして来たように思う。

わたしの愛読書は、中学～高校～大学時代にまで、少年ジャンプ・少年マガジン・少年サンデー・少年チャンピオン、ちらっと見た、あのPxxxBoy、30歳過ぎてても愛読書!?は週刊少年誌。だが、唯一、文学小説にはまった時期が…あった。其れは高校時代にバレー部後輩から「先輩、是非コレ読んでください!」と手渡された三浦綾子の『塩狩峠』である。

〔…結納のため札幌に向った鉄道職員永野信夫の乗った列車は、塩狩峠の頂上にさしかかった時、突然客車が離れて暴走し始めた。声もなく恐怖に怯える乗客。信夫は飛びつくようにハンドブレーキに手をかけた…。明治末年、北海道旭川の塩狩峠で、自らを犠牲に…〕

そう、小説の世界、本のチカラに…もう涙が止まらなかった。思い出した。図書館で三浦綾子シリーズを読み漁った。

40歳過ぎて、ほとんど読書と無縁だった私について図書館浸りの日々がやってきた。それは病院での闘病リハビリと図書館（ライブラリーうたづ）通いの生活の日々。その私の閉塞された日々は、昔大学受験の勉強のため図書館に通ったことを彷彿とさせ、1年数か月続いた。新しく出来たばかりの宇多津にある図書館で、或る棚に目が止まり、気がつくとその棚（電気、通信）には、読んでいない本が無くなっていた。そしてまた気がつく、壊れたPCを直し、自分でホームページを作ったり、マイドメインを持ち、サーバーを立て、自作パソコンを組み上げたり出来るようになっていた。

このような逆境から気づかされたことは…、「本のチカラとは、何の知識もない人に時間と空間を超えて知識や感情を伝えることであり、そしてそれは人間だけの特権なのだ」、という事だ。その人類だけの持つ財産である”本”が沢山集まる図書館というところは、宝の山であり素晴らしい所だなあ…と、今は思っている。

私にとって図書館は勉強するところではなく、好奇心を満たしてくれ”時間と空間”を超えて何でも与えてくれる宝の隠れ家だったのだ。普段図書館に縁のない皆様方も、どうしようもない人生の壁に当たってしまったとき…、図書館にふらりと立ち寄ってみられてはいかがだろうか。そしてわたしの宝物は、そこにまだまだ埋まっているのかもしれない…